

◆狭山市野球連盟のあゆみ（昭和 30 年度～昭和 63 年度）◆

<p>昭和 30 年度</p>	<p>昭和 29 年の狭山市誕生に伴い、多くの先輩のご尽力により、入間川町野球連盟を発展的に解消して狭山市野球連盟を創立することになり、準備を 4 月中に全て終了し、5 月 7 日に創立された。</p> <p>当時のチーム数は 20 チームで、事務局を入間川公民館（現在の中央公民館）に置き、入間川小学校の校庭を主会場として、大会が開催された。</p> <p>初代役員は、会長に岸善八氏、副会長に伏川、宮沢両氏、理事長に竹内幾太郎氏が就任し、連盟の運営が行われた。</p> <p>創立の年にふさわしく、天皇杯第 10 回全日本軟式野球大会予選会において、狭山市代表 A クラブが県下の強豪を撃破して優勝した。しかし、大会規律に違反して惜しくも優勝を取り消された。</p> <p>昭和 29 年に引き続き、第 2 回の市制施行記念大会が実施された。その当時の県大会は、東日本準硬式、天皇賜杯、国体の各県予選会の 3 大会で、市ではその予選を兼ねて各種大会を開催した。ハリケン・月光クラブなどが活躍する。</p> <p>入間川野球連盟より引き続いて、入間川地区自治会対抗野球大会に審判員及び役員を派遣して、大会運営に協力した。この大会は昭和 55 年まで継続された。</p>
<p>昭和 31 年度</p>	<p>市体協が設立され、体協創立記念大会が開催された。入間座クラブが天皇賜杯、国体の県予選会で活躍する。</p>
<p>昭和 32 年度</p>	<p>県大会及び全日本大会に多くの支部のチームを参加させて、野球を発展させるために全日本選抜軟式野球連盟大会（現在の高松宮賜杯 1 部・2 部）及び県下選抜軟式野球大会（C 級）が新設される。</p> <p>当時の狭山市の県登録チームは A 級：月光クラブ、B 級：航空自衛隊青雲、C 級：ライナーズクラブ。</p>
<p>昭和 33 年度</p>	<p>市の野球発展のために、第 1 回狭山市長杯争奪大会と第 1 回野球祭（東西対抗オールスター戦）が開催される。</p> <p>天皇杯第 13 回全日本軟式野球予選会において、市代表の月光クラブが第 3 位となる。また、第 2 回県下選抜軟式野球大会においても、市代表の山本製作所が第 3 位となった。</p>
<p>昭和 34 年度</p>	<p>連盟創立以来、狭山市野球連盟の発展に貢献した岸会長、伏川副会長等が勇退。新たに山本栄一郎（市消防長）氏が会長に、溝呂木正雄氏が副会長に選出され、理事長は武藤喜八（現会長）氏が留任し、連盟の運営が行われた。事務局を山本製作所内に置いた。</p> <p>県では、加盟支部数の増加に伴い、東・西・南・北部の 4 ブロックに分けてブロック予選が実施された。当市が所属する西部ブロックは、川越、所沢、飯能、狭山、入間郡、比企郡の 6 支部で西部地区連合会が発足し、事務局を所沢に置いた。</p>
<p>昭和 35 年度</p>	<p>県で A・B・C 級の格付変更を行った結果、当市より A 級なし。県登録チームは、5 チーム。また、県では国体予選会を本年よりオール支部対抗で実施した。市内では、月光クラブ・銀嶺クラブ・堀兼クラブなどのクラブチームの活躍が</p>

	目立った。
昭和 36 年度	<p>連盟では、大会の主会場である入間川小学校にバックネットが建設されたことを記念して、白元女子野球チームを招待し、5月21日に入間川小学校にて第3回野球祭として親善試合を開催した。当時は女子野球チームが盛んで、会場では約1,000名の人々が観戦した。白元女子野球チームは、その後数回にわたり来市し、連盟の発展に貢献いただいた。</p> <p>第5回全日本選抜軟式野球大会県予選会において、市代表の銀嶺クラブが準優勝し、関東大会出場権を獲得し、第6回関東選抜軟式野球大会兼第5回全日本選抜軟式野球大会関東予選会（B・C級）に県代表として参加。健闘して堂々準優勝の栄誉に輝いた。同年、埼玉県秋季中学校野球大会に参加した市代表の入間川中学校が堂々優勝した。銀嶺クラブ・堀兼クラブなどが活躍した。</p>
昭和 37 年度	<p>第6回埼玉県選抜軟式野球大会において、市代表の堀兼クラブは市代表で初めての優勝の栄誉に輝いた。第4回の野球祭には、東、西中学校の女子対抗及び工場（女子）と連盟（役員）の親善ソフトボール試合を実施した。第6回県下選抜西部地区予選会を開催する。ドリンカークラブ・堀兼クラブなどが良い成績を収める。</p> <p>市民体育祭の一環として行われた、旧町村地区対抗の野球大会に対し、審判員及び役員を派遣して狭山市野球発展のために寄与した。この大会は昭和56年まで毎年開催される。</p>
昭和 38 年度	<p>この頃から多くの会社が市に誘致されて、連盟の登録チームも次第に会社チームが増加する兆しが見えてきたが、クラブチームの活躍が全盛であった。第7回の県下選抜西部地区予選会を開催した。</p> <p>また、白元女子や旧チームを招待して、第5回野球祭を開催する。全日本選抜野球大会が高松宮賜杯全日本選抜野球大会となった。銀嶺クラブ・セネターズなどが活躍する。</p>
昭和 39 年度	<p>連盟では、審判部の充実と審判技術の向上のために、第1回審判技術講習会を東中において、約80名の参加により実施した。講師は井ヶ田三男（県連審判部運営委員長）氏と粕谷、内沼氏。第6回野球祭に白元女子野球チームを招待し実施した。</p>
昭和 40 年度	<p>次第に会社チームが頭角を現し、特に本田技研狭山・日本電波・熊工クラブ（鷺宮）が活躍し、中でも本田技研狭山は、高松宮賜杯第9回全日本軟式野球大会予選会において準優勝した。県代表として関東大会へ出場し準優勝の成績を収め、市代表として初めて全国大会に出場し、堂々の3位となる。クラブチームの衰退が目立ち始めた。東日本準硬式が常陸宮賜杯全日本準硬式野球大会となった。</p> <p>入間川壮年野球大会に審判員及び役員を派遣し、大会の運営に協力した。</p>
昭和 41 年度	<p>登録チームが増加し、今まで20前後のチーム数が35チームと急激に増え、連盟の野球大会が非常に活発になる。また、登録チームをA・B・Cクラスに格付けして大会を実施した。</p>

	<p>市体協創立 10 周年を記念し、記念大会及び白元女子野球チームを招待して第 7 回野球祭を開催した。</p> <p>常陸宮賜杯第 2 回全日本準硬式県予選で、市代表の本田技研狭山は準優勝して県の強化チームになり、国体準硬式県代表リーグに参加して惜しくも準優勝となった。本田技研狭山・鷺宮製作所狭山が活躍する。</p>
昭和 42 年度	<p>埼玉県民の長年の夢であった国体が開催された。野球の部も大宮、浦和、川口、川越、熊谷で各種大会が行われ、埼玉県が総合優勝の栄誉に輝いた。審判員として、西村良造氏と武藤喜八氏が参加する。</p> <p>本田技研狭山が軟式・準硬式とも国体の予選会に出場し健闘した。</p> <p>市では、第 2 回の審判技術講習会を入間川小学校で約 80 名の参加のもと実施した。講師は、浦和の植村氏。</p> <p>石川市長杯争奪大会を開催し、日本クロス（A・Bクラス）、グローリーズ（Cクラス）が優勝した。</p> <p>本年度連盟では、残念ながら大会規律違反をしたなどにより、3 チームを出場停止処分にした。</p>
昭和 43 年度	<p>準硬式野球に力を注いだ鷺宮製作所狭山が、その努力が実り常陸宮賜杯第 4 回全日本準硬式予選会において優勝し、全国大会の出場権を得た。軟式では、本田技研狭山が天皇賜杯第 23 回全日本軟式野球予選会において第 3 位となる。この年、サロンパス女子チームを招待し、野球祭を開催する。また、高松宮賜杯西部地区予選会を開催。</p> <p>本田技研狭山・鷺宮製作所狭山・日本電波・入間基地などが活躍。市の登録チームも 47 チームとなった。</p>
昭和 44 年度	<p>鶉ノ木の河川敷に 2 面使用できる市営野球場が完成し、連盟の各種大会の主会場となる。鷺宮製作所狭山は、常陸宮賜杯第 5 回全日本準硬式県予選会において連続優勝し、全国大会へ出場した。また、本田技研狭山は高松宮賜杯第 14 回全日本選抜軟式野球大会予選会で優勝し、関東大会へ出場した。</p> <p>県登録チームも次第に増え、15 チームが登録する。本田狭山・鷺宮狭山・日本電波などが活躍。</p>
昭和 45 年度	<p>西部連合会の当番支部として西部地区運営にあたる。本田狭山・鷺宮狭山・日本電波などが活躍。</p>
昭和 46 年度	<p>連盟では、西部地区の各支部との親善と審判技術の向上を深めるために、比企支部と役員との親善試合を計画し、第 1 回小川町八幡台球場において開催する。以後、開催地を一年ごとに変えて開催することに決定。</p> <p>本年も鷺宮製作所狭山が常陸宮賜杯第 7 回全日本準硬式県予選大会で優勝し、全国大会に出場する。</p> <p>また、第 26 回国体準硬式県予選会でも優勝し、関東大会で準優勝となった。一方、中学校の春季大会で西中学校が第 3 位となる。会社チームの活躍が目立つ。狭山市消防団野球大会に審判員・役員を派遣し、大会の運営に協力した。この大会は昭和 49 年まで開催される。</p>

昭和 47 年度	<p>鷺宮製作所狭山は、常陸宮賜杯第 8 回全日本準硬式予選会で優勝し、全国大会において準優勝の栄誉に輝いた。また、国体準硬式県予選でも優勝。</p> <p>高松宮賜杯西部地区予選会を鷺宮製作所狭山グラウンドで開催する。登録チームが 26 チームに減少した。比企支部との親善試合を始めて狭山市鶴ノ木グラウンドで開催。</p>
昭和 48 年度	<p>鷺宮製作所狭山が埼玉県代表として、全国大会において数々の栄誉に輝いた。まず、常陸宮賜杯第 9 回全日本準硬式大会で 2 年連続優勝した。</p> <p>次に、第 28 回準硬式千葉国体に出場し、全国の強豪を撃破して優勝し、狭山市代表として初めて全国制覇を成し遂げ、埼玉県「狭山市」の名を全国に響かせた。一方、市内においては、異色チームの「青果」の健闘が光る。第 3 回の比企支部との親善試合を小川町で開催。</p>
昭和 49 年度	<p>準硬式では県下に敵なしの鷺宮製作所狭山が、2 年続けて輝かしい金字塔を打ち立てた。第 29 回茨城国体に出場し、2 年連続無失点の大記録を残して堂々の連続優勝を成し遂げ、埼玉県「狭山市」の名を全国に轟かす。</p> <p>市内では常連チームに混じって、小林コーセー・第 3 補給所・本田四親会・ヤングースなどが活躍。比企支部との親善試合を狭山市で実施した。</p>
昭和 50 年度	<p>鷺宮製作所狭山は、常陸宮賜杯第 11 回全日本準硬式県予選会において、昭和 46 年より連続 5 回優勝し、県野球大会史稀にみる立派な成績を残した。</p> <p>市内では、連盟創立 20 周年を記念し、記念大会を開催する。また、高松宮賜杯西部地区予選会を鶴ノ木グラウンドで開催した。比企支部との試合を小川町で実施。本年度より高松宮賜杯全日本選抜軟式野球大会が一部と二部に分かれて開催されることになった。</p> <p>鷺宮狭山・ロッテ・本田狭山・第 3 補給処などが活躍。</p>
昭和 51 年度	<p>昭和 34 年より昭和 50 年までの 17 年間の永きにわたって連盟会長として狭山市野球連盟の発展に貢献した山本会長が勇退し、同じく田中副会長も勇退され、新たに本木欣一氏（県議）が会長に、西田昭孝氏（日本電波狭山工場長）が副会長、市村正男氏が理事長に選出され、連盟の運営が行われる。</p> <p>また、我々野球人永年の夢である市営公式野球場の建設に関する請願を、昭和 51 年 9 月 10 日、請願者・西田昭孝他 3,348 名、紹介議員・宮寺金作他 12 名により議会に請願し、9 月議会にて採択される。</p> <p>市内では、体協創立 20 周年を記念し記念大会を実施した。小林コーセー・第 3 補給処・日本電波・本田狭山が活躍。第 6 回比企支部との親善試合を狭山市で開催。狭山市の野球発展のために数々の優秀な成績を収めた、鷺宮製作所狭山が解散して鷺宮狭山クラブとして登録した。登録チームも 43 チームとなる。</p> <p>第 22 回埼玉県市議会議員親善野球大会の中央大会が狭山市・狭山体育園で開催され、審判員及び役員を派遣して協力した。</p>
昭和 52 年度	<p>高松宮賜杯西部地区予選会を開催。本田四親会・ロッテ・日本電波などが好成績を収めた。第 7 回の比企支部との親善試合を小川町で開催。</p>

昭和 53 年度	<p>第 33 回国体軟式県予選会において、鷺宮狭山クラブが第 3 位となる。県下選抜軟式野球大会においては、航空自衛隊第 3 補給処チームが堂々優勝し、翌年度より新設される東日本 B・C 級大会の C 級出場権を獲得した。</p> <p>常陸宮賜杯準硬式が廃止され、本年度より県会長杯争奪大会が新設される。第 1 回大会には狭山精密が出場。市内では、日本電波・鷺宮狭山・第 3 補給処・本田四親会などが活躍。第 8 回比企支部親善試合を狭山市で開催。</p> <p>少年野球が非常に盛んになり、それに伴い審判技術の向上のために、少年野球の審判講習会を始める。</p> <p>役員の変更があり、副会長に市村・武藤両氏、理事長に宮寺氏が選出された。また、第 1 回県学童大会が開催され、狭山ライオンズが出場した。</p>
昭和 54 年度	<p>西部地区当番支部として、西部地区審判技術講習会（1泊2日）を開催した。第 2 回学童西部地区予選会を開催。第 1 回東日本 B・C 級大会の C 級の部に、航空自衛隊第 3 補給処が参加した。（桐生）</p> <p>市内では、ロッテ・日本電波などが活躍。第 9 回比企支部との親善試合を小川町で実施。登録チームも最高の 58 チームとなる。</p>
昭和 55 年度	<p>高松宮賜杯第 24 回全日本軟式県予選会（第 1 部）で、鷺宮狭山が準優勝した。鷺宮狭山・本田狭山・日本電波などが活躍。第 10 回比企支部との親善試合を狭山市で開催する。上奥富グラウンドが完成する。</p>
昭和 56 年度	<p>青少年の健全な育成と市内中学校の野球技術向上のため、市内中学校野球大会を春と秋に開催する。初年度は春・秋とも西中学校が優勝。</p> <p>第 4 回学童野球西部地区予選会を開催し、県大会においては、狭山台キングスが第 3 位となる。</p> <p>また、高松宮賜杯第 25 回全日本軟式県予選会（第 2 部）において、日本電波が第 3 位となる。また、第 1 回全日本学童野球大会県予選が開催された。比企支部との親善試合を小川町で開催。</p> <p>市内では本田狭山・鷺宮狭山・狭山市役所などが活躍。</p>
昭和 57 年度	<p>少年野球の発展と技術向上のために、少年野球連盟を吸収し連盟少年部を発足。初代少年部長に吉原氏、少年部審判部長に横田氏が選出される。</p> <p>高松宮賜杯第 26 回全日本軟式県予選会（第 1 部）において、鷺宮狭山が第 3 位となる。また、関東選抜軟式野球大会で県推薦の鷺宮狭山が優勝。第 2 回の中学校野球大会を春と秋に開催する。</p> <p>市内では、常連チームの他に、狭山精密・電々狭山が活躍。</p>
昭和 58 年度	<p>第 6 回県学童野球大会で市代表の水富セネターズが優勝。関東大会へ出場し健闘する。県学童西部地区予選会を開催。上奥富 A グラウンドが改装され、記念大会を開催する。第 3 回中学校野球大会を春と秋実施。</p> <p>市内では、航自中警団・航自コスモ・ラッキーズなどが活躍。</p>
昭和 59 年度	<p>市制 30 周年を記念して、開会式及び記念大会を開催する。連盟登録チームを 1 部・2 部・3 部とした。県会長杯西部地区予選会を開催。また、2 年延期した比企支部との親善試合を狭山市で開催した。</p>

	<p>第 4 回中学校野球大会を春と秋開催。県学童野球大会がオール支部対抗となる。会社チームの活躍が目立つ。</p>
昭和 60 年度	<p>鷺宮狭山クラブが、県大会高松宮賜杯に優勝し関東大会に進む。</p> <p>連盟創立 30 周年にあたり、種々の記念事業が計画され実施された。3 月には、一般部と少年部合わせて約 80 チーム・2,000 名が集まり、上奥富 A グランドにおいて 30 周年記念開会式を行った。</p> <p>また、夏には 30 周年記念事業の一環として、西部地区の学童チームを招待し、記念大会を実施した。(優勝：入間東オール三芳・準優勝：入間西：鶴小エンゼルス)</p> <p>7 月には、記念誌に掲載するため、旧役員・OB 約 20 名を集めて座談会を開催する。</p> <p>12 月 8 日に狭山市民会館で式典を実施し功労賞 48 名・16 チーム、感謝状を 20 名に授与する。引き続き、藤田元司氏(元巨人軍監督)による記念講演を実施。同夜、狭山農協ホールにおいて祝賀会を実施する。</p>
昭和 61 年度	<p>サギノミヤ狭山、県 A クラスに昇格。入間川中学校、県大会第 3 位。</p> <p>忍成選手(柏原タイガース・西中学校出身)が 6 月に行われた全国大学選手権で優勝した東洋大学の主軸として活躍する。同月、世界選手権のメンバーにも選出される。</p>
昭和 62 年度	<p>サギノミヤ狭山、国体県予選準決勝進出。天皇杯準優勝。</p> <p>サギノミヤ狭山・日本電波・本田狭山の 3 強時代続く。B クラスでは、池貝ゴス・新村印刷だ活躍する。</p> <p>県秋季中学大会で狭山西中学校が優勝。</p>
昭和 63 年度	<p>サギノミヤ狭山、国体県予選決勝進出。</p> <p>B・C の春、夏、秋大会の優勝・準優勝チームがそれぞれ異なる混戦の年であった。</p> <p>県秋季中学大会で山王中学校が優勝。前年度に続く市内中学校の連覇は、連盟主催の大会等による指導強化の成果か。</p>